

◁ ポツダムよりの音信 ▷

＝ 荒 木 俊 馬 ＝

漸く秋らしくなつて、洛北洛南の山々に松茸の香がただよひ、木の葉もやがて色づこうと言ふ今日此頃になると、例年きまつたやうにポツダムの秋が戀しくなる。フリードリヒ大帝が營んだ無憂宮^{リンスィン}の壯麗さや、サンスィシ公園^{おもむき}の趣も忘れられぬ思い出ではあるが、それにも増してテレグラーフエンベルグの丘の秋色は又格別である。ボヘミヤ・ガラスのやうに澄み渡つた紺碧の空の下に、もう今頃は森の木の葉が眼のさめるやうな黄色を呈してゐるであらう。そこには懐かしいポツダム天文臺があり、アイシュタイン塔がある。

オリムピツクの委員として、又大阪プラネタリウムの囑託として獨逸伯林に遠征した高木公三郎君からの書信は、ポツダムの昨今を傳へてうれしいものである。その昔の思い出がしみじみと胸に湧く。

『荒木俊馬先生

1936年9月4日

在伯林 高木公三郎拜

只今ルーデンドルフ先生のところから歸つて参りましたところです。今日の非常に嬉しかつた半日を、兎も角、先生に御報告申します。此の手紙が先生のお手許にとどきます頃は京都も秋らしくなつて、1年中で最も氣持のよい時ではなからうか等と考へ、又、洛北一帯の氣持よく晴れた空も思い出されます。昨年先生方のおともして参りました、貴船や八瀬を思い出したり、花山附近、將軍塚の景色、そして例によつて瀬田川や琵琶湖を想ひます。

先生がよくお話し下さいました様に、今の伯林は全く日本の初秋と言つた感じで、朝夕の少し冷えるのも真に清清とした氣持を與へて呉れます。いくらか旅慣れて、ズウズウしくなつた安易な心持で、綺麗に家々が立ち揃つた伯林の街を歩いてみますと、こんな處にもつと、もつと長く居て、ゆつくり勉強が出来たら、と言ふ様な望みが、しみじみと湧き出して來ます。勿論早

く歸つて、皆様方とお目にかゝるのは何にもまして楽しみではありますが、時としてさうした全く反對の氣持になります。

今迄3回、門までは訪ねましたが、先生が御不在だつたので、お目にかゝれなかつたので、昨日は思ひ切つて、お電話しました。幸に先生は御在室で、「あ、Kyoto からか。何時来るか。早く来い」と言つ下さいましたので、今朝の10時と約束致しました。

昨夜からは、一寸した會話の本で、特に「訪問」と言つた章を勉強しまして、今朝の電車の内でも、丁度、作文の試験を受けに行く氣持ちでそれを續けました。

朝から小雨が降つて居ましたが、やうやく晴れて、雲間からは陽光も出、ポツダムからの道々が特に美しく思はれました。

美しい岡に、先生から戴いたお手紙や、お土産の品と名刺とをもつて、心をおののかせながらベルを押しました。

すぐお部屋へ案内され、ルーデンドルフ先生は態々戸のところ迄、巨きい手を差し伸べて来て下さいました。

先づ最初に、「グーテン・タグ……ヘル・プロフツサ！」と申して握手をしました。そして次ぎに私は「お近付きになる事が出来て、大變嬉しく存じます」と言ふ心算でしたが、綺麗な白い頭髪をなでながら、先生の方から「どうぞ、お掛けなさい。その安樂椅子の方がゆつたりして好いでせう。それとも此の椅子にしますか。工合悪くはないでせうね」これは、辛うじて意味が判りましたので「ダンケ・ゼーヤ」とお禮を申しましたら、次が出なくなつてしまひました。

先生は私を座らせて、先生(荒木)からのお手紙を読み初められ、時々私の方を見て微笑したりして、又読み續けられました。後から考へますと、お笑ひになつたのは、

「然し、貴下にして、甚だゆつくりとお話し下され候御親切有之候はば、彼は恐らく貴下の御言葉を幾分諒解する事も亦得んかと存じ上げ候」のところではなかつたかと思ひました。併し、御手紙をお讀みになつてからは、極めて、それでソラングザム(ゆつくり)に話して下さいましたので、先生のお話は

完全に了解出来ました。併し、そう急にお返事が出来ないので「ヤ」とか「ナイン」とか言つて、あとを考へてゐると、もう次ぎのお話になつて居るので、之は少々悲しい思ひを致しました。

親切に色々話して下さつた上、助手の人に、あらゆる機械を見に案内させて頂きました。荒木先生が御勉強されたお部屋も見せて戴きました。インシュタイン塔も隈なく見せて戴き、色々と親切なお話をして下さいました。

プラネタリウムの事を申しましたら、今頃はツアイスは軍部の仕事に多忙だし、工場をゆつくり見る事は不可能かも知れない、と申され、日本にも、いゝプラネタリウムが出来るのは良い事だ。Tokyo か、Kyoto か等聞かれるので Osaka ですと申しますと、一寸不思議さうな顔をされました。

お土産の品を出しますと大變喜ばれました。いつも日本からの品物は大變美しいし可愛いと言つて、人形の事、畫の事などを聞かれました。私自身も、實は、宮島の夜景の板畫を1枚額に入れて持参しました。そして之は、荒木先生が、昔住はれた事のある廣島から程遠からぬところで、日本三景の一だと申しましたので可なり興味を持つて下さつた様子でしたが、日本三景と言うのは、もう一つ説明不十分で、もつと他の意味にとられたかも知れないと思ひました。

男爵フォン・デア・パーレン先生のは、君自身渡さないかと言つて、パーレン先生を探して下さいましたが、お忙がしい様子だつたのでルーデンドルフ先生にお願い申しました。

約2時間半、色々とお邪魔しまして、お別れ申しました。「またお出でなさい」と何回も言つて下さいました。それに荒木先生と平山先生に宜しく申して呉れと云はれました。わざわざ門のところ迄、先生自身でお送り下さいましたのには全く恐縮申しました。

再び來て、先づドイツ語を、次ぎに天文の勉強がしたいと思ひますと申しましたら、是非來い、と言つて下さいました。

こちらに参りましてから今日程嬉しい經驗をした事はございません。私は遙かに荒木先生に衷心御禮申します。

諸先生や皆様方にどうか宜敷く御傳へ下さい。』

高木君の手紙は以上の通りであつた。ポツダムの様子がまのあたり浮んで来て、久し振りに、何とも言ひ知れぬセンチメンタルな氣持がするのであつた。

それから2, 3日してルイデンドルフ教授から手紙を受け取つた。ルイデンドルフ臺長は歐洲大戰で勇名をはせた、人も知るルイデンドルフ將軍の令弟で、その風貌も亦兄將軍に髣髴たる堂々たる人であるが、高木君の手紙の中に「綺麗な白い頭髪をなでながら」とあるのを見れば、彼も近頃は大方、年をとられた事であらう。こうした事を考へ、あの偉貌に似ぬ優しい手紙を読むのであつた。その手紙には次のやうに書いてあつた。

『我が親愛なる同僚よ。

兩3日前、貴下の弟子高木氏訪ね來られ、貴下よりの書面並びに美しき繪及び可憐なる人形は正に落手仕り候。何はともあれ、先づ難有く御禮申し上げ候。斯くの如き日本の品は何時みても麗はしきものに有之、誰れにてもみな有頂天になるものに御座候が、小生も亦た正にその通りに御座候。然れども、それにもまして、貴下が我がポツダム天文臺並びに我々の祖國に對して贈られし、何時迄も變らざる貴下の忠實なる追憶こそ、まことに小生にとつては嬉しき限りに御座候。貴下にして今再び當地に來られる事——こはやがて其の機のある事を切望して止まぬ所に御座候が——是れ有り候はば、貴下は我がポツダムが當時に比して遙かに麗しく相成れる事を發見せらるべしと存じ候。當今、當市民は新しき市長を頂き申し候が、氏はポツダム市街の美術化に多くの努力を惜まず、趣味を害するやうのものは出来る丈け之を市街より取のぞき候。現今、獨逸國內に於ては到る所、熱心に活動し、到る所前進發展の途に有之候。而して眞に平和と統制とは保たれ、1918年より1933年に至る時代は、今は單なる昔しの悪夢として吾々より消え去り申し候。高木氏も、又、實際、當地を甚だ満足に思はれたる様子に御見受け申し候が、氏は歸朝後、自身にて多くを物語り可有之候事と存じ候。

當天文臺に於ても萬事好都合に参り居り、塔望遠鏡（アインシュタイン塔の事）の60種對物鏡も今漸くツアイスに支拂出来る事と相成り候のみならず、其他種々の小設備等建設又購入し得る運びと相成り申し候

最後に、繰返し感謝の意を表し、心より御挨拶申上げ候。早々敬具。署名』

× × ×

ブランデンブルグの平原と丘陵にも、漸く秋色が深くなる頃であらう。ワ
ンゼ1湖畔のハイキングも「孔雀島」の逍遙も、今はもう夢のやうな美しい思
い出となつて仕舞つた。が、同じ星の世界に親しむ同僚たちは、日本の夜か
らも、プロシヤの宵からも、同じく月や星を通していつでも物語る事が出来
るやうに感ぜられる。(昭和11年9月27日)

時計とオリムピツク

ベルリンで開かれたオリムピツクの記録は如何にして最大精度を得たか？
以下 Horological Journal 9月號より轉載して御紹介しよう。近頃あらゆる工
學方面で精密な時間の測定は益々其の必要さを加へてゐるが、此度のオリム
ピツクでは此等工學の粹を集めて其の記録には相當の苦心が拂はれてゐる。
即ち Reich Physico-Technical Institute では之れが爲めに、わざわざ設計し
た精巧なフィルム・カメラで1秒間に100回撮影して、各々のフィルムに時間
を打録し、競技終10分後にはすでにスクリーンの上に再現する事が出来る。
これは前回のロサンゼルス大會に比べて時間自記へと第一歩を進め、獨逸寫
眞工業の誇を示してゐる。而もレンズ2個を立體鏡的に竝べて、赤緑二様の
フィルタ1を通して撮影したので出来上つた寫眞は頗る實際に近く、競技の
結果に對する不正確さも全く解消される譯である。

50軒徒歩とマラソンではレブナ1・クロノメータ1を要所々々に配置し
て、ピストルと時計相互は電氣的に連絡され、走者が其の地點に近づけば特
別に装置されたテープに通過時間を正確に記録し、審判は單に到着順序を記
録すればよい。この様な装置は全種目を通じて必ずしも必要では無いが、特
にフェンシングでは其の必要性が認められる。然し現在の所では未だに刀劍
が敵に觸れる瞬間を電氣的に記録する域には達して居ない。1940年東京オリ
ムピツクでは如何なる装置が考案されるか、科學日本の面目にかけてもその
實現が期待される。(時計生)